



## 全国医師国民健康保険組合連合会

### 第61回全体協議会開催

「医師国保組合に対する定率国庫補助削減、廃止を断念すること。高額医療費によって、保険者に過重な負担がかからないよう、国の積極的な対応を求める。」等の決議を採択

去る10月7日（土）に一般社団法人全国医師国民健康保険組合連合会（略称「全医連」）の第61回全体協議会が、近畿ブロック（担当：滋賀県医師国保組合）主催で、滋賀県大津市：「びわ湖大津プリンスホテル」において全国各医師国保組合の代表者など397名が参集して開催された。

その概要を報告する。

当組合の出席役員

副理事長 深澤 雅則 常務理事 三戸 和昭  
常務理事 田代 典夫 理 事 今 真人  
監 事 我妻 浩治

全医連の全体協議会は、全国を中国四国、関東甲信越、近畿、九州、中部、東北北海道（開催順序）の6ブロックに分け、ブロック持ち回りによって開催され、医師国保組合運営上の問題点などについて協議している。

会議は各組合の理事長（代表者）が出席する代表者会を開催した後、全体協議会を開催するのが慣例となっている。

## 代表者会

令和4年度会計決算等を審議

来年の第62回全体協議会の主催は  
九州ブロック  
開催地は長崎県長崎市と決定

代表者会は、昼食後12時15分から各組合の理事長（代表者）が出席し開催された。

なお、当組合から組合役員として 深澤 雅則 副理事長が出席している。

〈協議事項〉

- (1)令和4年度事業報告について
- (2)令和4年度会計収入支出決算報告、令和4年度監査報告について
- (3)全体協議会の運営について
- (4)第61回全体協議会における決議（案）について
- (5)「会長指名」枠の理事の選任について
- (6)任期満了に伴う監事の選任について
- (7)次期全体協議会の開催地について

議事は全て承認され、次いで、鳥取県の清水 正人 理事長より、「中国四国ブロック合併・統合シミュレーション結果からみた医師国保組合の将来について」の講演がなされた。

以上で、第17回代表者会は終了した。

## 全体協議会

### 代表者会で決議した事項の報告

午後1時40分から全体協議会が開催され、瀬古修二 滋賀県理事とびわ湖放送アナウンサーの黒川彩子氏が司会を担当し、高井 康之 大阪府理事長が開会を宣した。

最初に 越智 真一 滋賀県理事長から主催ブロックを代表しての挨拶が行われた後、近藤 邦夫 全医連会長（石川県理事長）から挨拶が行われた。

次に、来賓の方々が祝辞を述べられた。

全国国保組合協会会長 渡邊 芳樹 氏  
参議院議員 羽生田 俊 先生  
参議院議員（内閣府特命担当大臣）  
自見はなこ 先生  
（ビデオメッセージ）  
滋賀県医師会副会長 木村 隆 先生  
滋賀県知事 三日月 大造 氏  
（代理 大岡 紳浩 健康医療福祉部長）  
大津市長 佐藤 健司 氏

なお、日本医師会会長の松本 吉郎 先生は懇親会で祝辞を述べられた。

引き続き、司会者から来賓者の紹介が行われた。

滋賀県国保連合会理事長 橋川 渉 氏  
（代理 桂田 俊夫 副理事長兼常務理事）

議長には例年どおり担当組合の越智 真一 滋賀県理事長が就任していただくことで、代表者会で承認されていることが報告され、担当ブロックの理事長の紹介が行われた後、議事が進められた。

〈報告事項〉

- (1)令和4年度事業報告について
- (2)令和4年度会計収入支出決算について
- (3)令和4年度監査報告について
- (4)決議(案)について
- (5)「会長指名」枠の理事の選任について
- (6)任期満了に伴う監事の選任について
- (7)次期全体協議会の開催地について

(1)～(2)は、全医連総務担当 空地 顕一 理事(兵庫県理事長)から、(3)は、全医連 濱島 高志 監事(京都府理事長)から報告がなされた。

(4)について、安東 範明 奈良県理事長が「決議」文を朗読され、議長より「この決議につきまして、先程の代表者会で承認を受けておりますが、皆様の支持を確認する意味で、拍手をよろしく願いいたします。」と述べられ、大きな拍手で了承された。

なお、採択された「決議」文の取扱いについては、内閣総理大臣他、政府関係機関に送付することも併せて報告された。

(5)では、近藤 邦夫 全医連会長(石川県理事長)から、8月23日開催の第16回代表者会で承認された定款の一部変更により、理事定員を4名増員し、第17回代表者会において、2名の選任が了承され、松崎 信夫 先生(茨城県理事長)、清水 正人 先生(鳥取県理事長)が就任されたとの報告がなされた。

(6)は、全医連総務担当 空地 顕一 理事(兵庫県理事長)から任期満了に伴う監事1名の選任につい

て、先ほどの第17回代表者会で選任され、釣船 崇仁 先生(長崎県副理事長)が就任されたとの報告がなされた。

(7)の開催地については、議長より代表者会において、九州ブロック主催で、担当は長崎県と決定、日時は令和6年10月12日(土)、開催場所は長崎市内の「出島メッセ長崎」で開催されることが報告された。

次いで、次の演題により、講演が行われた。

\* 基調講演

座 長：滋賀県医師国保組合

小西 眞 常務理事

演 題：『国保問題検討委員会諮問答申について』

講 師：一般社団法人

全国医師国民健康保険組合連合会

国保問題検討委員会 委員長

篠原 彰 先生(静岡県副理事長)

\* 特別講演

座 長：滋賀県医師国保組合

越智 眞一 理事長

演 題：『古代湖としての琵琶湖

400万年の歴史』

講 師：滋賀県立琵琶湖博物館

館長 高橋 啓一 氏

以上で全医連の第61回全体協議会は無事終了した。

決 議

医師国民健康保険組合(以下、医師国保組合)は、昭和三十六年に始まる国民皆保険制度の成  
立以前から、医師らによる強い連帯意識と相扶共済の精神に基づき、わが国の健康保険制度にお  
ける先駆的役割を果たしてきた。以来、六十有余年に亘り、地域住民の生命と健康を守る医師を  
はじめとする医療従事者は、医師国保組合の存在により安心して地域医療に貢献してきた。  
こうした認識の下、医師国保組合は厳しい財政状況のなか、保険料の適切な引き上げとその完  
全収納、自家診療の請求自粛、充実した保健事業等により、健全な運営に努めている。

二〇二〇年初頭から世界的規模で拡大した新型コロナウイルス感染症は、わが国の医療提供体  
制を大きく揺るがした。本年五月、感染症分類が二類から五類に引き下げられたことから、感  
染者の全数把握は定点観測に変わり、正確な感染状況の把握は難しくなった。他方、国民の警戒心  
も薄らぎつつあり、医療従事者としては一層の警戒が必要になっている。

二〇二二年二月に起きたロシアによるウクライナ侵攻、台湾を巡る米中間の緊張等を理由に、  
防衛費の大幅増額が決められたことを含め、さまざまな状況により、国家予算の三分の一を占め  
る社会保障費は格好の財源ターゲットになることが懸念される。昨年の財政制度等審議会の建議  
書にあつた「所得水準の高い国民健康保険組合に対する定率国庫補助を廃止することも検討すべ  
き」とする方針は、到底認められない。

更には、医学・医療の進歩により、次々に登場する超高額薬剤や、本年、米国で承認され、八  
月にはわが国でも承認された認知症薬のように、価格は三百万円程度でも患者数が非常に多い高  
額薬剤は、規模の大きくない保険者にとって大きな脅威となる。国民皆保険制度堅持のためにも、  
高額医療費問題に対する、財政支出を含む国の積極的な関与が望まれる。

勤労者皆保険の理念は理解するが、実施に当たっては、国保組合の存立基盤に大きな影響  
を及ぼしかねないので、当事者である国保組合の意見を十分聞くことが求められる。  
よって本会は、第六十一回全体協議会において、危機意識を共有し、喫緊の課題について慎重  
に議論した結果、左記の事項を採択し、国会並びに関係諸機関に強く要望する。

記

- 一、医師国保組合に対するこれ以上の定率国庫補助削減、廃止を断念すること。
- 一、国民皆保険制度を崩壊させかねない高額医療費によって、保険者に過重な負担がかからない  
よう、国の積極的な対応を求める。また、国は、医学・医療の進歩に対応する医療保険制度  
を確立し、国民皆保険制度を堅持すること。
- 一、勤労者皆保険の推進に当たっては、当事者である国保組合の意見を十分聞くこと。

右、決議する。

令和五年十月七日

一般社団法人 全国医師国民健康保険組合連合会



